

関東徳州会創立六十周年記念 「徳之島まつり」を終えて

関東徳州会前幹事長
徳之島「夢」振興会議理事 徳山 泰夫

平成十九年十月二十八日(日)に、埼玉県宮代町にある東武動物公園で、関東徳州会(徳之島三町の集い)の創立六十周年を記念して「徳之島まつり」を開催致しました。

初めての郊外での開催だったので、皆さんに参加していただけるか心配でしたが、この日は、前日の台風も過ぎ去って、朝から秋晴れの気持ちの良い日となりました。鳥から高岡秀規徳之島町長、関東各郷友会幹部の方々と大勢の会員が出席され、総勢三百名以上が集まり公園内のイベントプラザで「徳之島まつり」が始まりました。創立六十周年を記念した総会、式典、子供たちの作文・絵画コンクールや物産展、たくさんの出演者による文化芸能祭など盛りだくさんの内容で行われました。十二時から約一時間半、総会・

式典が行われ、形式的な行事の中で、子供たちの作文発表は「おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、おかあさん」のふるさと「徳之島」をテーマに、大勢の前で緊張しながらも一生懸命発表している姿には、会場内の大人たちも感動いたしました。

野外ステージでは、午後から一部、二部とわかれて踊りや模擬闘牛のパフォーマンスを披露して、園内の人たちに徳之島をアピールしました。

物産展(徳之島「夢」振興会議へ委託)には、おなじみのパイヤ漬け、黒糖、海ぶどう、豚味噌の缶詰など、たくさんの食材が取り揃えられていました。

今回のまつりの見ものは模擬闘牛大会でした。新たに制作された本物そっくりの模擬闘牛二頭がステージにあがると、

会場内は一気に盛り上がり、最後は全員参加でワイド節、六調踊りで幕を閉じました。

末筆になりましたが、今回「徳之島まつり」開催にあたり、大勢の皆様から多額の寄附金・協賛金のご支援を頂き誠にありがとうございました。又、会の運営にご尽力くださった皆様から御礼申し上げます。

古代東アジアの南北軸
奄美地方の地理と歴史

「鶏の来た道」
「人が来た道」

理事、企画
コンサルタント事業担当
久澤 克己
(徳之島町母間出身)

私達の郷里奄美諸島には、7世紀の頃、日本と中国大陸の間を東シナ海の荒波を越えて何度か往来した遣唐使船が

風待ちの為寄港した記録がありますが、それより更に1000年ぐらい前、縄文時代の終わり頃に、もっと遠い東南アジアの大陸部ーインドシナ半島の付け根辺りから丸木舟に身を託し島伝いに、ひたすら北東の方角をめざした勇敢な移住者達が次々立ち寄った可能性もあります。大陸の戦乱を逃れ平和で食糧の豊富な楽土を求めた古代のポトピープルです。

私達日本人は、古来のヤマト民族に北方系や南方系などの渡来人種の血も入った混血民族だと言われますが、奄美大島出身の偉大なロシア文学者昇曙夢の『大奄美史』という本にも、南方から海を渡って来て日本人化したく印度支那の苗(メオ)という大種族が、大昔は揚子江以南の中国各地まで進出して「百越」と言われるほど勢力をふるっていたのが、漢民族の勃興につれ次第に南西の方へ押し戻された。その一部が海路によつ

額縁、絵画、製造 全国販売

株式会社

アルナ

代表取締役社長

雪山渥美 (天城町)

本社〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎2562-26
TEL 048-878-4811(代表) FAX 048-878-4823
http://www.aluna.co.jp president@aluna.co.jp
携帯電話 090-9954-5311